

岳連 ニュース

宝 永

URL: <http://www.shizuokam.com>

静岡県山岳連盟

〒420-8076

静岡市駿河区八幡3-1-17

TEL (FAX) 054-288-7512

編集発行/総務委員会

平成31年3月18日発行

第28号

冬山登山技術の習得へ 基礎的内容中心に講習会

平成30年度の冬山登山講習会・登山指導者講習会が2月2日(土)・3日(日)に掛け富士山御殿場口双子山周辺に於いて開催された。本講習会は今回で58回目を数える歴史ある講習会である。

講習会に先立ち1月26日例年通り担当講師による事前打ち合わせが行われ、指導の内容とその方法及び注意点の確認と共に、一昨年の那須高校生雪崩事故を受け、スポーツ庁よりの通達「冬山登山の事故防止について」「高校生等の冬山登山の事故防止のための方策について」滝田会長より解



開講式

説を受けた。また、「富士山の雪崩」について日本雪崩ネットワークの会員でもある西島昇指導員より講義を受け、講習会に臨んだ。

今回の参加者は高校生30名、一般初級B6名、中級6名、顧問・指導者9名、講師・本部員を合わせて77名の参加であった。開講式では滝田県岳連会長、名雪県教育委員会健康体育課長の挨拶があり、その後指導委員長よりの諸注意、講師紹介後、講習を開始した。

高校生はテント設営のデモンストレーションに基づき、各班毎にテントを設営すると、その後双子山方面に訓練場所を求めて行動を開始した。

今年の双子山周辺は前々日の降雪で心配した雪も多く、各班は沢筋の斜面を利用しての講習と成った。内容は事前の講師打合せに基づき、雪面歩行(ツボ足・キックステップ)による直登高・直下降、

斜登高・斜下降)、ピッケル技術(名称・携帯法・使用方法)、耐風姿勢等を実施して一日目の講習は終了した。

2日目も天候に恵まれ



テントの設営

初級セルフレスキュー研修会 ファーストエイド、搬送法、テーピング等

平成30年度 初級山岳レスキュー講習が1月19日静岡市の「あざれあ」にて開催された。

午前中は、大石さんの講義で「ファーストエイド」登山中の外傷や体調

異変の多くは、不慣れた場所が発生する。限られた人数が、装備、資材での対応が求められる、まず初期対応から始まりバイタルサイン・体位、寝かせ方・止血・固定・冷却・

早朝6時より行動を開始すると、箱根連山に昇る朝日を見て双子山付近までの雪面歩行、滑落停止方法を実施する。初級Bは滑落停止を中心に、中級と高校顧問はロープを使い確保技術の習得が行われた。

閉講式の講評では今回の講習はあくまでも基本的なもので有り、繰り返し行う事により技術を身に付け、今後の安全登山の第一歩として頂きたいとの話があった。

(内海廣治)

保温、加温等々説明し時には、モデルを使って実演が行われた。

次に工藤さん二人と小林さんで「身近なものでできる搬送法」一人ですべ方法、二人で運ぶ方法、道具を使用した搬送法、を各グループに分かれて、練習をした。

午後の部では弘明堂治療院佐藤先生を講師に、棒を使用しての肩の歪み及び足の痛みなど個々に

調べ、参加者の一人が実際に貼って貰い、貼った前と後での違いを実感した。又胸筋テープ・首の後部が痛いとき・肩が重い場合・片足が踏ん張れない時等、テーピングテープの使用などの指導を受けた。



搬送法の実技

次に静岡県警遭難救助隊の鈴木隊長の講話があり、30年度の静岡県の遭難事故件数等の報告、及び事故事例、コホヘリへの活用などを話された。参加者は23名、指導員4名、役員3名であった。

(堀内 修)



男子に好記録 学校対抗 富士高優勝 第20回竜爪山岳競技会

竜爪山岳競技会が12月9日(日)に静岡市の竜爪山を会場に実施された。この大会は元々は国体山岳競技の縦走の練習会として始められ、今年で節目の第20回を迎えた。

ト地点まで徒歩で移動した。ウォーミングアップの後、女子は10時30分、男子は10時40分に一斉にスタート。持てる力を振り絞りゴールの薬師岳山頂を目指した。

2008年より山岳競技から縦走が廃止となったが、その後も高校総体の県大会に規定重量(男子21kg、女子17kg)を合わせ、主に県内高校登山部員の体力を競う大会として継続されている。

今年も高校総体県予選で上位に入賞する多くの学校が出場した。平山公園で開会式を行った後、選手は三本桜下のスター

好天に恵まれ、特に男子は好記録がでた。上位3人で争う学校対抗は、男女とも層の厚い富士高校が制した。個人では富士東高校の1年生が男女ともに上位に入賞する健闘を見せた。上位の結果は以下の通りである。

【個人男子】
1位 藤枝東高校 小野隆祐(2年) 58分47秒



少年男子のスタート

秒 2位 富士東高校 栗原大芽(1年) 58分55秒 3位 富士高校 北原稔朗(2年) 59分30秒

【個人女子】

1位 富士高校 金指澤奈(2年) 71分48秒
2位 富士高校 佐野真紀(2年) 77分35秒
3位 富士東高校 本多風沙(1年) 78分26秒

1位 富士宮西高校 福島英由子(教諭) 89分03秒
【学校対抗】(上位3人のタイム合計)
男子1位 富士高校
2位 葦山高校 3位 藤枝東高校
女子1位 富士高校
2位 葦山高校 3位 富士宮西高校 (清水雄三)

岳連の法人化と名称変更の要請を受ける

全国理事長会議

2月17日、東京渋谷のフォーラムエイトで、平成30年度の全国理事長会議が全国47名の理事長の参加を得て開催された。冒頭、八木原会長から「尾瀬の登山者がピーク時の4割にも減少した。登山界の先行きを示しているようで心配である。最近スポーツ界の不祥事が報じられている。日山協、加盟団体も他人事ととらえず、気を引き締めたいかなければならない。世の中大きく動いている時、それをよく見ながら変えていくことが必要である」と挨拶があった。

尾形専務理事から、平成31年度の役員改選について、「理事について従来のブロック推薦枠を外し、全国から適任者を選任できるよう規定を改定した。現在、役員候補につき選考委員会審議中



八木原会長の挨拶

である」と経過報告がなされた。

次に、岳連法人化の推奨についてと題し、合田常務理事から報告があった。「法人化は手間ひまコストがかかるが避けられない状況と考えてほしい」と前置きしたうえで、「スポーツ不祥事が多発は組織内のガバナンスに問題があるといわれている。ガバナンスは、スポーツ基本法、協会規定で日山協だけではなく岳連にも求められている。規定では山岳スポーツを統括する団体としての組織運営の透明性を確保し、ガバナンスの強化充実を図ることと記載されている。これは岳連の使命であると自覚してほしい」と説明した。

そこで、岳連に対し2件の要請があった。

①可及的速やかに法人化の要請

現在4団体が法人化しているが他の団体は出来るだけ早目に法人化をお願いする。お願いであるがこれは避けることのできない潮流だと思っしてほしいとのこと。又、理事会承認を受けていないが、新たに加盟する団体は、法人でなければならぬ、既に加盟して法人でない団体は速やかに法人となるように努めなければならない」と規定を改定する予定だという。(常務理事会では承認済み)

法人の選択肢はいくつかあるが、一般社団法人が費用、ハードルの高さから見てお勧めだとした。又、日山協は岳連に対し、一般社団法人化のみを目的としたサポートを弁護士がすることになっているとサポート体制を強調した。

②岳連の名称にスポーツクライミング(SC)を入れることの要請

現在、SCが岳連の名称に入っている団体は、6団体ある。岳連は県内でオリンピック競技のSCを統括する団体として、県内の人がSCに関する問い合わせをするとき、SCの入っていない山岳連盟に問い合わせをするのは好ましい状態ではないとするのが日山協のスタンスである。「名称の変更をぜひお願いしたい」と要請を受けた。

(木ノ内 高嘉)

晴天に恵まれ雪の上高地を楽しむ 平成30年度雪山教室開催

雪山の知識と技術を身に付け、楽しみ方を知って頂くとの主旨で企画された「雪山教室」も今年で4回目を数え、今年度は上高地を会場に開催された。

受講者は6名(男性3名、女性3名)、何れも夏山経験を十分踏まれた方々。

先ずは2月13日の座学にて「雪山の楽しみ方」として素晴らしい雪山のスライド写真を堪能すると、「雪山の衣服と装備」「雪山の危険、低体温症・凍傷」「雪山の食糧」「雪山技術、歩き方」と、無雪期とは異なる雪と寒さに対する雪山への対応



を学んだ。

本番の実技は2月23日・24日と一泊2日で実施。初日は乗鞍高原、一の瀬園地でスノーシューとアイゼン歩行のトレーニングを行う。

静岡を車2台に分乗し出発し、乗鞍高原へ。雪予報だった天気も晴に変わり、乗鞍岳が青空にくっきりと姿を見せていた。駐車場より一の瀬園地に向かう雪の車道はすっきり踏み固められて、とてもスノーシューを使っても歩行状態ではない。車道脇に並行して走るサイクリングロードに雪を求め、明日の上高地に備えたスノーシュー歩行で一の瀬園地まで歩く。ネイチャープラザで昼食を取り、広い雪面に自由にトレースを付けてアザミ池に向かった。アザミ池ではスノーシューをアイゼンに履き替えると、斜面を使いアイゼン歩行のトレーニングを実施した。

二日目は6時30分、宿の車で釜トンまで送って頂くと、トンネル入り口で準備体操を行い歩行を開始した。トンネル内は照明が点きヘッドランプ無しでの通行が可能。但し総延長1.3kmのトンネルは出口との標高差が45mと今山行で一番の急登だった。トンネルを抜けると青空の元に焼岳が姿を見せ、快晴・無風の好天気、噴煙が真っ直ぐに立ち登っている。凍結した車道を慎重に足を運びカーブを曲がると、今度は霧氷に包まれ静まり返った大正池の向こうに、真白い穂高の峰々を望むことが出来た。

冷え込んだ気温に頬が冷たい。座学で学んだ凍傷への対応を思い出し、目出度で覆い、指はグーパー運動を行う。今度は右手斜面の小デブリを見て雪崩対応の解説を受けながら先にと進んだ。大正池ホテルからは車道より自然探究路へと道を取る。ここしばらく降雪の無い上高地に、探究路はしっかりと踏み固められスノーシューもアイゼンを使う必要も無い雪道と成っていた。平坦な雪の樹林帯を進み、雪面と成った田代池を見て梓川右岸

にと出る。更に梓川のせせらぎを見て河童橋に出ると、相変わらず青空の広がる上天気、岳沢が大きく広がり、奥穂から西穂と白い連なりがグツと近く成って見えた。

そんな景観を楽しみながら昼食を取ると、帰路はバスターミナルより車道を使い釜トンへと戻った。予想外の雪の少なさと、踏み固められた雪面にスノーシューもアイゼンを使うことなく歩いた上高地となったが、好天に恵まれ予定通りの行動で雪山教室を終えることができた。今回の受講で雪山の楽しさを知り、習得した技術と知識が今後の安全な雪山登山に生かされるよう希望する。

また、男子決勝は、最初と最後にランジのあるメイン壁のルート(12c)で鈴木大翔と吉永利行が的確な登りで完登、これも予選のカウントバックで鈴木大翔の優勝となった。

小中学生が台頭

クライミングコンテスト

平成30年度 クライミングコンテストは、1月14日に男子が28名、女子が11名の参加を得てスクエアクライミングセンターで行われた。

女子の予選は、傾斜は無いが、悪いホールドや切り替えしの連続するルートで、永嶋美智華と中里溪夏が終了点手前のホールドまで進むが、完登ならず(12ab)上位5名が決勝進出した。男子予選は、メイン壁の真ん中を進むルートで、ルーフを超えるまではジャグが続くが、その後は細かいホールドが連続するルートで、鈴木大翔、赤池俊

哉、吉永利行の3名が、終了点をつかむが、吉永が終了点にかけられず、完登は2名で上位6名が決勝進出した(12b)。

まず、女子の決勝は、6番壁からメイン壁につながるルートで、上部の



男子リード

1位	鈴木大翔	豊田中
2位	吉永利行	藤枝北高
3位	外岡啓太郎	門池中
4位	赤池俊哉	浜松日体高
5位	堀岡隼人	千代田小
6位	大村拓司	浜松学芸高

女子リード

1位	永嶋美智華	東益津小
2位	鈴木結菜	清水不二見小
3位	横田はるな	浜松日体高
4位	中里溪夏	裾野西中
5位	鈴木奏羽	北浜北小
6位	松島紀杏	六合中
6位	中尾もも	浜松学芸高

ユース世代の活躍顕著

高校・ジュニアボルドリング競技大会

第12回静岡県高等学校・

ジュニアボルドリング競

技大会が、2月11日(月)

に静岡市のプラネットク

ライミングジムに20校43

人(男子29人、女子14人)

の参加を得て競技が行わ

れた。予選は男女共通の

12課題のセッション方式

で行われ、完登数とゾー

ン獲得数で競われた。予

選はメインエリアに加え

て、新装した別館も使い、

スラブ壁はお披露目の大

会ともなった。特に別

館はボリウムホールド

を多用したルートが多く、

モチベーションを高めた。

男子は12課題全完登の3

人に加えて10完登までの

7人が決勝に進んだ。女

子は、10完登の3人に加

えて、8完登までの6名

が決勝に進んだ。決勝は、

4分間隔のベルトコンベ

アー方式で行われ、男子

は、片桐(浜松工高)が

4課題とも一撃の圧巻の

登りを見せ、大会4連覇

を飾った。2位には、4

完登8トライの吉永(藤

枝北高)が入った。女子

は、時間を使いながらも

粘り強くトライを重ねた

永嶋(東益津小)が、全

課題完登し、3完登の中

里(裾野西中)、鈴木

(清水不二見小)を押さ

え2連覇を飾った。ユ

ース世代の台頭があるが、

全国のレベルも大きく上

がっている。今後、本県

から、大きな舞台で戦う

選手が育つことを期待し

健闘するも予選敗退 次に期待

全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会

第9回全国高等学校選

抜スポーツクライミング

選手権大会が、12月22日

と23日の二日間、埼玉県

加須市・加須市民体育館

で開催された。静岡県か

らは、男子、片桐稜真

(浜松工業一年)、赤池

俊哉(浜松日体一年)、

金澤恒明(浜松日体二年)

の三名、女子、中尾もも

(浜松学芸二年)、宮道

陽奈(浜松日体二年)、

井内千裕(浜松日体二年)

の三名が出場した。

予選はフラッシング方式

たい。なお、今大会の壁

面の設定、セットに多大

な労力を払っていたとい

た倉島さんおよび、ジム

スタッフの皆様方に感謝

申し上げます。

男子1位 片桐稜真(浜

松工高) 2位 吉永利

行(藤枝北高) 3位

鈴木混人(金谷中)

女子1位 永嶋美智華

(東益津小) 2位 中

里溪夏(裾野西中) 3

位 鈴木結菜(清水不二

見小)

(諸戸 明)

で各選手二つのルート

を登り、それぞれのルート

の順位点の合計で準決勝

進出が決まる。大きいホ

ールドを多用するのが近年

の傾向であるが、今年も

男女ともに、その傾向が

続いた。

男子、Aルートは中盤ま

で大きめのホールドを抜

けた先、ポケットが連続

する箇所がひとつの難所

であった。一つ目のポケッ

トまでの距離が遠く、落

下する選手が続出した。

赤池、金澤も、同地点で

ポケットに指が入らずフォ

ール。片桐は、一つ目のポ

ケットはクリアしたもの

の、カンテからのポケッ

ト取りで届かず、フォー

ルとなった。Bルートは、

下部にカチ、中盤にボテ

という構成であった。金

澤は直前に左手を痛めて

いたこともあり、カチに

苦戦しフォール。赤池は

中盤ボテに時間をかけず

ぎて、力尽きてフォール

した。結果、片桐31位、赤

池54位、金澤77位と、全

員が予選で敗退する結果

となった。

女子は、Cルート、D

ルートともに、下部から

大きめのホールドが続く

課題であった。特に中尾

井内は選手としては小柄

であり、大きめのホール

ド、遠めの設定には苦戦

したようであった。二年

連続出場となる井内は、

苦手とする遠めのホール

ドをクリアしたものの、

中盤で力尽きフォール。

中尾も、序盤の大きめの

ホールドで苦戦し、フォー

ール。宮道は、中盤から上

部に差し掛かるところま

なった。結果、宮道53位、

井内74位、中尾77位とこ

ちらも全員予選敗退となっ

た。

昨年引き続き、今年

も男女ともに全員予選敗

退であった。参加者全体

の競技力が向上し、同高

度に大きな集団ができた。

そこから一手伸ばせるか

どうかで順位が大きく変

わった印象である。とは

いえ、男子二人はまだ一

年生ということもあり、

今後の成長を予感させる

ものではあった。

県内のクライミングコ

ンテストでも、小中学生

が力を伸ばしてきており、

来年以降全国レベルで活

躍してくれるものと期待

している。この高等学校

選抜クライミング選手権

大会でも、準決勝、決勝

と勝ち残り、より高いレ

ベルで勝負できる選手が

現れることを望む。

(馬淵 剛)

指導者研修会

平成30年度の指導者研

修会が1月26日、静岡市

の「あざれあ」で公認指

導員等20名の参加を得て

開催された。

夏山リーダー制度につ

き、堀内、鈴木両指導

員から説明があった。こ

れは、ネット情報等で登

山する人が多い中、安全

登山の知識を取得し自立

した登山者の育成を目的

とした制度で、UIAA

資格に準拠し、合格する

とUIAA公認の日山協

「夏山リーダー」資格認

定者となるという。

次に、工藤指導員から

安全登山指導者研修会

の内容を実演を交えながら

報告を受けた。登山の課

題、道迷い防止のナビゲ

ーション、山の応急手当、

ファーストエイド等の説

明から、登山を計画する

段階でルートの注意点、

中止条件、エスケープルー

ト等メンバー全員で、よ

く話し合い、確認し合う

ことが安全登山に大切で

あると話した。

(木ノ内高嘉)



搬送法の実演

中級セルフレスキュー研修会

今年度の中級セルフレスキュー研修会が11月17日(土)18日(日)西湖観岳園にて、晴天の下指導委員会合同で開催された。加盟団体から6名、一般1名、岳連から2名参加があり、両日とも堤信夫氏に講義及び実技を行って頂きました。

ハイキングレスキューに必要な装備の説明及びブルージックでのロープへの巻き付け、登降の練習等行い1日目終了、夕食後西島氏のプロジェクトにて装備品の確認、ロープへの巻方等勉強会、2日目は沢筋の堰堤にて、立木にスリングを巻き支点の取り方、ブルージックでの登下降の練習、負傷者の引き上げでのスリングの使い方、引き上げシステム(オートブロックにて2/1、3/1)など行い2日間の研修会が終了しました。

山岳会紹介

富士山麓の富士宮の地域山岳会として、創会60周年を越える足跡を残して来た山岳会です。日本の岩場の初登争いやヨーロッパアルプス6大北壁日本人初登攀争い、ブモリやアマダブラムの日本人初登頂を目指した先輩を持つ山岳会ではある。一方、富士山の麓の山岳会として、県警山岳遭難救助隊設立以前から富士山の遭難救助には関わる立場でもあった。

そんな山岳会にも、登山ブームが去り、若者の登山中心の登山は終わり、中高年登山中心の「日本百名山」時代へと当会も変わって来た。当会も登山中心の若者から、オールマイティーに山登りを楽しむ活動となり、メンバーが固定化してきた。

そんな中で、30、40、50、60周年記念行事を機会に、「日本百名山巡り」

自分がいま何をするのか、何をしているのか、カラビナの使い方(使う箇所によって違ってくる)



等々、勉強になりました。研修会に参加されました皆様ありがとうございました(堀内 修)

南アルプス相談所開設

南アルプスの冬山相談所が、12月28日から1月3日までの7日間、沼平の指導センターで開設された。

県遭対協からの要請により、県岳連から指導員を派遣した。また、警察の山岳救助隊員もその間

常駐し、登山者の相談、指導及び天候や雪の状態などの情報提供を行い、安全登山の一翼を担った。

現在南アルプスの登山道の状況は、台風の大雨で茶臼岳へはつり橋が3か所崩落しており、また聖岳へは夏道が崩落している。このため登山口には登山道の状況と登山を禁止する旨の看板がある。静岡市の担当課(中間山地振興課)も広報に努めている。

この期間の沼平からの

入山は、昨年より大幅に少なく、聖岳・赤石岳方面や千枚・荒川岳方面に集中した。このため冬期小屋は満員でテントを張ったパーティがあった。相変わらず単独の登山者も多かった。

今年の冬山は、暖冬で積雪は少なく年末年始好天に恵まれたが、暮れは稜線では強風で停滞したパーティがあった。この間山岳救助隊への事故等の連絡はなかった。

(滝田博之)

富士宮山岳会

会長 工藤 誠志

「日本アルプス、親不知から御前崎までリレー登山」「日本百高峰」など全会員で取り組む企画を完成させながら、地域の山の「天子山塊 ガイドと記録」を出版するなどの活動を実践してきた。

一方、地域山岳会として市体育協会や行政との連携を密になるよう地域への活動の輪を広げ、市民バスハイク(市民スポーツ祭登山大会)、夏の富士登山シーズン中の富士宮口の安全登山パトロー、天子山塊の縦走路の草刈り、依頼のあった地元中学校の林間教室のサポートなどを担うようにしている。

この60年間、不幸にして、6名の仲間を山の遭難で失う悲しみと対峙した。

その悲劇を再び出さないために、セルフレスキュー意識向上に努め、技術や装備が「井の中の蛙」にならないように会員の日山協や県岳連の講習会への講習参加を奨励し、会内での内容の共有に努めている。また、昨今の気象の過激化に対し、「登山は、晴れたときに楽しむ」をモットーに、気象情報を事前にチェックし、山行中も気象情報の変化に気を配ることに注意した行動に努めている。

山岳会で、山の教育を受けるより、ネットで情報を得て個人で楽しむことが容易にできる時代となり、なかなか従来の山岳会に入って登山を高めようとする若者は減っている。登山も、時代を反映して、「中高年登山」「日本

百名山」「山ガール、山ボーイ」などのブームで活発化し衰退する。今日は、山で「インスタ映え」の写真を撮影するために山に来る若者、ジムのボルダリングから外壁を経験したくなる若者が出現している。

そんな中で、富士宮の裾野で、縁あって一緒に山の自然に接することを楽しむ仲間を一人でも増やし、ピークハント、山脈の縦走、岩壁の登攀、沢登り、アイスクライミング、海外の山、自然の風景や高山植物を楽しむ登山を担う地域山岳会でありたいと精進している。

登山は年齢に合わせた楽しみ方ができる。それを世代を越えて「生涯登山」「オールマイティー登山」を実践する地域山岳会が、今の富士宮山岳会であり、そうあり続けたいと思っています。

11月常任理事会

平成30年11月19日(月)
18時30分から・静岡市静岡労働会館で常任理事会が開催された。

出席者 滝田博之会長
清水雄三副会長、木ノ内高嘉理事長、豊田 稔、堀内 修、工藤誠志、増田浩二、市川隆夫、鈴木修、坂田 昇、内海廣治、加藤敏美、諸戸 明、前川朝夫 14名欠席者

出利義次、高橋 弘、望月喜久治 赤堀 正、兼子 猛、伊藤正道、鈴木重幸、鈴木和也
会長挨拶

事業計画行事の、秋山登山教室は天気に恵まれ実施できた。山の日記念写真展は、各会で募集したが写真が集まらず各団体に割り振りし再度お願いした。中級レスキューについては、外部講師により行われた参加者を増やしたい。今後の事業についても参加者を増やすようお願いします。

1 事業報告
(1)指導委員会(工藤)
・中級山岳レスキュー講習会 遭対と共催し部外

講師を招き開催 11月17日(日) 18日(月)

・日山協 指導員名称変更(案) コーチ1、コーチ2

・「夏山ハイキンググリーダ」資格について、31年度からの新しい資格取得の実施に向け、静岡県として講師、検定方法、検定場所等について検討中

2 事業計画
(1)指導委員会(工藤)
(1)指導者講習会

平成31年1月26日(土) 8時55分(受付) 12時

場所 静岡県男女参画センター「あざれあ」

(2)第58回冬山講習会・第56回登山指導者講習会
平成31年2月2日(土)

3日(日)
場所 富士山 御殿場口双子山付近

(3)雪山登山教室「雪山を楽しむ」
平成31年2月23日(土)

24日(日)
場所 乗鞍 上高地

募集期間 平成30年12月1日 12月31日 (内海)

(2)遭難対策委員会(堀内)
(1)初級山岳セルフレスキュー研修会
平成31年1月19日(土)

9時 16時

場所 静岡県男女参画センター「あざれあ」

(1)国体委員会(清水)
①第20回竜爪山岳競技会開催
平成30年12月16日(日)

8時45分 13時30分
会場 静岡市平山公園及び竜爪山周辺

コースは整備されている。運営役員の応援をお願いします。

(2)平成30年度 国体競技力向上対策事業 (諸戸)

・静岡県高等学校・ジュニアボルトリング競技大会開催 平成31年2月11日(月)

会場 プラネットクライミングジム静岡店 静岡市駿河区下川原

小学生の参加が認められたことから、名称にジュニアが加えられた。

3 平成31年県岳連カレンダー (滝田)

280部印刷し、現在20部の残り

4 その他
日山協東海ブロック審判員研修会
期日 平成31年2月2日(土) 3日(日)

会場 三重県 会場未定 (前川朝夫)

1月常任理事会

平成31年1月21日(月)
18時30分から静岡労働会館において常任理事会が開催された。

出席者は滝田、清水、前川、出利、豊田、増田、赤堀、市川、鈴木修、坂田、内海、諸戸、兼子(文責) 計13名

1. 会長挨拶
12月までの事業も順調に推移、残りの事業も引き続きお願いしたい。

2. 各委員会からの事業報告
指導委員会
特になし
国体委員会
特になし

遭難対策委員会
1月19日の初級山岳セルフレスキュー研修会に24名の参加があった。

海外登山委員会
特になし

3. 各委員会からの事業計画
指導委員会
(1)指導者講習会を1月26日に開催する。「夏山リダー制度」について(テキスト・ビデオ)・「安全登山教室」のポイント

をテーマに進める。
(2)雪山登山教室を2月23日 24日 乗鞍高原、上高地会場に参加者8名にて実施予定
(3)冬山講習会・登山指導者講習会 2月2日 3日 双子山付近にて参加者 一般14名、高校生8名、生徒35名
高校生の雪山登山に対し、スポーツ庁からの通達により例年より参加者減となる。
国体委員会
(1)第74回国体(茨城県)静岡県予選会実施について
期日 4月27日(土)
種目 リード、ボルダリング両方に参加が条件
期日は例年の5月3日から、本年は10連休を考慮しての設定となった。
4. その他
(1)岳連カレンダーの収支報告
280部作成、268部売却、12部贈呈
(2)しらびそ自然講座2018 講師に小松由佳氏を迎え開催
2月16日(土) 会場 島田プラザおおり (兼子 猛)

編集後記

平成30年度の最終号「宝永28号」は、通常4ページのサイズが、内容が豊富であるので、6ページで発行した。これは活動が活発に行われていることを示していて、歓迎すべきことである。

先般、日山協の会議で、大阪府岳連から、スポーツクライミング(SC)の組織を別に立ち上げるという話があった。現状の岳連では、SCに関する運営ができないという。急速に発展してきたSCに対して、昔からのアルパインスタイルの組織、人では対応できないというの理解できる話である。

全国のほとんどの連盟が同様の悩みを抱えていることは推察できる。ただ、この問題は日山協再編にまで発展しかねない要素を含み予断を許さない。五輪種目のSCと登山は異質のように思えるが、何とか相互に共存し発展できる術が見いだせないかという思いである (TK)